ひょうごJCC

79

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

2013. 10. 31

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）などの兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して－協同が息づくまちづくり－」を『基本理念』として、協同組合の「共通行動目標」の実践に取り組んでいます。

Contents

1. 協同組合活動スナップ ……1
2. 兵庫JCC創立30周年 第91回国際協同組合デー 兵庫県記念大会を開催 ……2～3
3. 「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を開催 ……4～5
4. 今協同組合では－各協同組合からの報告－
   ●生協／JA（農協）……6
   ●JF（漁協）／JForest（森林組合）……7
5. 協同組合運動に生きる「これまで」の上に「これから」の協同組合がある
   JA兵庫中央会 専務理事　浜田　充……8

協同組合活動スナップ

2013広島被爆ピアノ平和コンサートを開催

△ 生協

今年で5回目となる「広島被爆ピアノ平和コンサート」を8月7日に開催。姫路市児童合唱団の皆さまとともに約370人が集い、平和の音色に耳を傾けました。

「グレードアップ兵庫県産山田錦」集荷目標達成へ決起大会を開催

△ JA（農協）

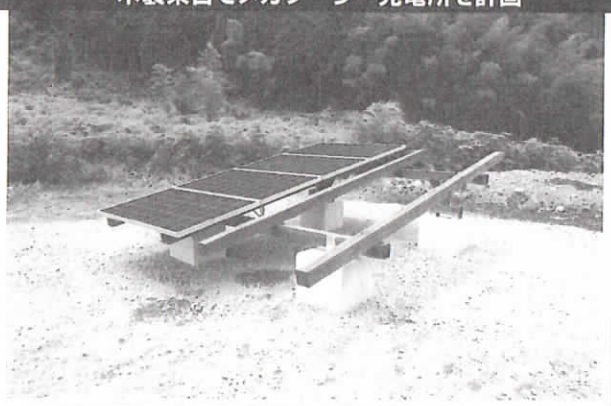
2013年産「グレードアップ兵庫県産山田錦」の集荷目標達成に向けて、決起大会を開催。今年産の目標約22万俵（1俵60キロ）を実現し、酒造会社の要望に応対するとともに、PRイベントなどを通じて日本酒需要を拡大し、産地振興に弾みをつけることを確認しました。

楽しい体験♪おいしい発見♪目指せ!暮らしの達人 宝の海を取り戻せ!!

△ JF（漁協）

ひょうごのお魚ファンクラブ「シートクラブ」にコープこうべ組合員の親子が体験学習に来られました。当日はタッチプール、干しダコづくり、魚を使った料理教室、漁業者との交流と盛りだくさんの内容でした。

木製架台でメガソーラー発電所を計画



△ JForest（森林組合）

兵庫県産木材を使用し、兵庫県多可郡多可町に1.33メガワットの太陽光発電所を建造中。

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫JCC事務局

兵庫県生活協同組合連合会　TEL（078）391－8634
兵庫県農業協同組合中央会　TEL（078）333－5896
兵庫県漁業協同組合連合会　TEL（078）940－8013
兵庫県森林組合連合会　TEL（078）341－5082

兵庫ＪＣＣ創立30周年
第91回国際協同組合デー兵庫県記念大会を開催

記念講演をする中桐代表

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫ＪＣＣ）は7月5日、神戸市中央区の兵庫県民会館けんみんホールで「協同の力で未来を拓く」をテーマに、「兵庫JCC創立30周年記念第91回国際協同組合デー兵庫県記念大会」を開催しました。国際協同組合デーは、全世界の協同組合員が心を一つにして協同組合運動の発展を祝い、平和とより良い生活を築くために運動の前進を行う日です。県内から、ＣＯ・ＯＰ（生協）、ＪＡ（農協）、ＪＦ（漁協）、ＪＦｏｒｅｓｔ（森林組合）の組合員や役職員、一般参加者ら、約360人が参加しました。

第1部では、4団体を代表して、ＪＡ兵庫中央会の石田正会長があいさつ。続いて、生活クラブ生活協同組合都市生活の山下尚子理事長が、「2013年以降も2012国際協同組合年の取り組みを継続し、現在社会が抱えるさまざまな課題への積極的な役割発揮が期待されること、兵庫ＪＣＣ設立宣言の原点に立ち返り、暮らし良い兵庫と協同組合の発展を目指す」と兵庫ＪＣＣ宣言を朗読し、満場一致で採択されました。

代表あいさつをするＪＡ兵庫中央会石田会長

第2部では、特定非営利活動（ＮＰＯ）法人メダカのコタロー劇団による「みんなで里海を守ろう」と題しての演劇と、親子をつなぐ学びのスペースリレイト中桐万里子代表による「つなごう　新しい明日へ」と題しての記念講演が行われました。閉会時には、参加者から惜しみない拍手が贈られ、すばらしい大会になりました。

なお記念大会に先立ち、当日同会場で、第30回兵庫ＪＣＣ委員会が開催され、2013年度の事業計画・予算などが審議されました。

惜しみない拍手を贈る参加者たち

第91回 国際協同組合デー兵庫ＪＣＣ宣言

2013年、兵庫ＪＣＣは創立30周年を迎えます。これまでの30年の歩みの中に、平和とより良い生活を目指す協同組合運動の理念、全国の協同組合運動ならびに海外協同組合運動との連携などを再確認し、改めて、ここに協同組合関係者の団結を呼びかけます。

東日本大震災と福島の原発事故から2年が過ぎました。被災された皆様に心からお見舞いを申しあげます。発災以来、私たち協同組合関係者は事業と活動を通じてさまざまな被災地支援活動に取り組みました。今後も被災地に寄り添い息の長い支援活動を進めてまいります。

兵庫ＪＣＣ宣言を読み上げる生活クラブ生活協同組合都市生活の山下理事長

今日、世界人口は70億人を超え、10億人以上が飢餓に苦しみ、食糧、環境、平和に関する持続可能な国際社会には程遠い状況です。国連はこのような状況に対して、「協同組合がよりよい経済・社会の建設に大きく貢献できる」と評価し、その発展を各国政府と国民に訴えるため2012年を国際協同組合年に定めました。

私たちは国連決議の期待に応えるため、東日本大震災被災地での地域コミュニティーの再生、高齢者単身世帯の孤立防止、エネルギー・環境問題、自然災害への備えなどについて取り組みました。2013年以降も自立と連帯の精神を礎に、協同組合間連携による助け合いのネットワークを広げていかなければなりません。

本日、第91回国際協同組合デー・兵庫県記念大会の開催にあたり、生協、農協、漁協、森林組合など兵庫県内の協同組合に集う私たちは、ともに生きる社会を前進させるとともに、「協同の力で未来を切り拓く」をスローガンに、協同組合運動の発展を目指し、一層努力していくことをここに宣言します。

2013年７月５日

兵庫ＪＣＣ創立30周年
第91回国際協同組合デー兵庫県記念大会

メダカのコタロー劇団による演劇

兵庫JCC創立30周年記念

「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を開催

兵庫JCCは、8月26日「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を開催しました。兵庫JCC4団体（生協・JA・JF・JForest）の次世代を担う職員が、各協同組合の事業と活動を学び、顔の見える関係を構築し、事業の連携につながることを目的に、36人が参加しました。

明石浦漁協にて

漁協の事業と活動報告

明石浦漁協の競り

六甲のめぐみにて

JA兵庫六甲直売所「六甲のめぐみ」の店内

協同組合間協同の様子

参加者の声

生　協

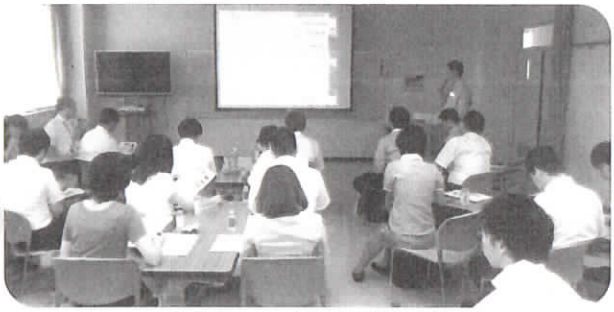
- 互いの協同組合の社会における役割と課題を知る機会の端緒となり、大変有意義でした。
- 他の組合を知ることで、自身の組合の良し悪しを客観的に考える良い機会になりました。
- 他の組合の話は、すごく新鮮でした。
- 実際に見て、話をしてさらに他の組合に興味がわきました。

JA（農協）

- 数年後、数十年後も、「協同組合間協同」を実践していきたいです。
- 他の組合の業務・役割を知れて、視野が広がりました。
- 事業活動の紹介や、現地視察により相互理解につながりました。
- さまざまな取り組み・考えを聞くことができて、大変参考になりました。

協同学苑史料館・協同学苑にて

協同組合の父賀川豊彦について学ぶ参加者



森林組合の事業と活動報告

参加者によるワールドカフェ

兵庫JCC創立30周年記念
「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」タイムスケジュール

開催日：2013年8月26日（月）9：30～17：00

9：30	JR明石駅集合
9：50～11：00（70分）	明石浦漁業協同組合 ・戎本組合長から漁業の実態報告
11：00～11：15（15分）	明石浦漁協競り市会場視察
11：15～11：50（35分）	バスにてJA兵庫六甲直売所「六甲のめぐみ」へ移動 車内でポスト国際協同組合年の取り組み、 兵庫JCC創立30周年企画の内容について説明
11：50～12：20（30分）	JA直売所「六甲のめぐみ」視察
12：20～12：50（30分）	協同学苑へ移動
12：50～13：30（40分）	協同学苑レストランで昼食
13：30～14：10（40分）	協同学苑史料館視察 ・コープこうべ職員から説明 ・賀川豊彦資料館視察
14：10～14：30（20分）	森林組合の事業と活動報告 ・森林組合職員から説明
14：30～14：50（20分）	休憩
14：50～15：50（60分）	参加者によるワールドカフェ ・ファシリテーター：コープこうべ　境氏 テーマ「協同組合でこういうことが出来れば良いなと思うこと」
16：00	協同学苑出発
17：00	JR明石駅前到着・解散

兵庫JCC事務局

各団体がそれぞれ事業活動を紹介。ＪＦの競り市（明石浦漁協）・ＪＡの直売所（六甲のめぐみ）・生協の協同学苑史料館の視察を行いました。同学苑内で森林組合の活動紹介の講義を行いました。

また、本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中でテーマに沿った対話を行う「ワールドカフェ」という形で「協同組合でこういうことができれば良いなと思うこと」をテーマに、これからの協同組合について参加者による意見交換会や交流をしました。

兵庫ＪＣＣでは今後、育樹活動、協同組合の源流地視察などを行い、次世代職員の交流を続けることにしています。

参加者の声

ＪＦ（漁協）

・各協同組合について知ることができて良かったです。
・ワールドカフェでは、他の組合の意見や考えを聞けて良い交流ができました。
・初めての試みであるので良かったです。
・日々の業務では、知ることができないことが学べたので大きな収穫になりました。

ＪＦｏｒｅｓｔ（森林組合）

・普段できない体験なので、興味深かったです。
・今後自分がどうしていきたいかを考えさせられる良い機会になりました。
・各々の組合で、職員が何に悩み、考え、どんな思いを持ち働いているのかなどを知ることができて、良かったです。
・ＪＣＣ４団体は協同組合という「絆」で一つにつながっていると実感しました。

今 協同組合では —各協同組合からの報告

生協から

「神戸市生活情報センター」を見学研修

7月30日、兵協連「生活問題研究会」メンバーと事務局、計7人で「神戸市生活情報センター」(神戸市中央区)を訪問し、「インターネット関連」や「医療費の還付」、「振り込め詐欺」「開運商法」の悪徳商法など消費者を取り巻く現状についてのお話を伺いました。生活情報センターでは年間12,000件もの神戸市内外の消費者からの「消費生活相談」に応え、安全・安心な暮らしを守るための問題解決へのアドバイスをしています。参加者からは、「相談件数の多さは、市民の信頼度の高さを示していると思いました」「“消費者教育”というと何だか難しそうですが、子ども向けの書籍やDVDもあって充実していた」「相談員の方も多く、窓口も充実している」「高齢者に対しては、地域コミュニティの中での多くの見守りが必要だと感じました」などの意見が寄せられました。

見学研修の様子

「2013年度兵庫県生協大会」を開催

10月10日(木)、兵庫県民会館にて「2013年度兵庫県生協大会」を開催。会員生協の組合員、役職員など約350人がつどいました。第1部の表彰式では「生協法施行65周年記念に係る兵庫県知事表彰」、永年生協の発展に寄与された方々に「兵庫県知事感謝」「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が送られました。引き続き第2部では「特定非営利活動法人ロシナンテス」理事長・医師 川原 尚行 氏による「ひとりはみんなの為に　みんなはひとりの為に　明日の子どもたちの笑顔の為に～スーダン・東日本大震災での活動～」の講演が行われました。また、骨密度・体脂肪・血圧測定の健康チェックなど、多くの参加者でにぎわいました。

生協功労者表彰など表彰式が行われました

JA(農協)から

栗振興へ部会設立

丹波広域農業研修センター(篠山市大沢)で8月9日(金)、JA丹波ささやま栗部会の設立総会が開かれました。

篠山市は古くから丹波栗の産地として有名であるが、中山間地で主に栽培される栗は担い手の高齢化と後継者不足などにより、年々生産量が減少しています。その対策として、丹波栗の品質向上を目指し、栽培に関する研究を行い、地域の栗振興と農業所得の増大および会員相互の親睦を図ることを目的として部会が設立されました。

今後、TACや普及所と連携して、栗栽培の要となる剪定(せんてい)技術を学ぶ講習会などの事業を定期的に行い、栽培技術の向上を図っていきます。またJAの販売部署と協力し、内外に丹波栗のPRをし、生産と販売の両面に力を入れていきます。

同会では、農学博士荒木斉氏による丹波栗の現状と課題、その対応を主題とした講演が行われ、参加した部会員は熱心に耳を傾けました。

また、9月下旬から10月上旬にかけて収穫される篠山の栗の主な品種である銀寄の出荷が始まりました。出荷の窓口となる各営農経済支店には、出荷予約を行った栗部会員から栗が運び込まれました。これらの栗は選果場にて選別され、丹波栗として各地に秋を届けています。

手作業による栗の選別

JF（漁協）から

～事業における協同組合間連携～

コープこうべ・JF神戸市・JF兵庫漁連が協同組合間連携事業として開催している「マリンスクール」を、今年も7月に垂水コースとしてJF神戸市、8月にJF兵庫漁連シートクラブコースとしてＪＦ兵庫漁連にて開催しました。

今年はマリンスクール以外にも、コープ委員の人々が魚のさばき教室と兵庫の漁業と環境についての学習、生協組合員の子どもたちがチリメンモンスターと兵庫の漁業と環境についての学習、コープこうべ第4地区が干しダコづくりや魚料理・漁業者との交流を行いました。

コープこうべ組合員の親子と漁業者が干しダコ作りを通して交流しました。

このように、コープこうべ組合員の人々がSEAT-CLUBを訪れ、食育や環境学習などを体験される機会が増えてきています。

JF兵庫漁連では上記のような体験学習だけではなく、JAと共催での料理教室や、JA直売所での鮮魚販売など経済事業での協同組合間連携にも取り組んでいます。

また、今年度からコープこうべと連携して「ひょうご地魚推進プロジェクト」を開始し、コープこうべの店頭で、産直市の実施や、JF兵庫漁連普及指導員の店舗受け入れ、対象魚種のとれぴちシール添付などによる普及活動に取り組んでいただいています。

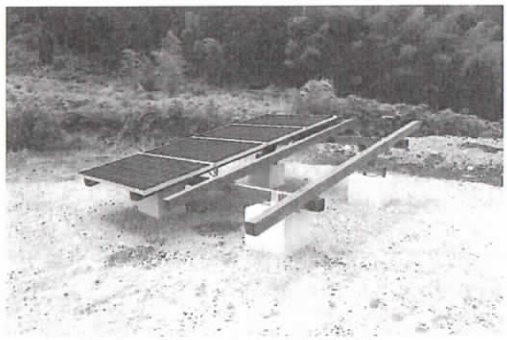
また、当プロジェクトをさらに深化させ、産地と消費地の"顔のみえる関係"づくりの取り組みとして、コープこうべ第二地区と連携して「魚食を推進する会」を立ち上げ、9月5日に第1回の学習会を開催しました。

このような協同組合間連携事業を通じて消費者の魚離れを抑止し、日本の伝統である魚食文化の継承につながる事を願うばかりです。

ひょうごのお魚ファンクラブ
SEAT CLUB
http://www.seat-sakana.net

JForest（森林組合）から

木製架台を使用した太陽光発電システムによる発電事業について



木製架台を使用した太陽光発電システム

兵庫県森林組合連合会の100％子会社であるサンフォレスト株式会社は、木材利用の拡大に貢献するため、太陽光発電システムの架台に木製架台を利用した太陽光発電事業を実施します。

現在、平成26年1月の竣工を目指して、設置場所の多可郡多可町加美区にて建造中です。

発電規模は約1.33メガワットで、一般家庭347世帯分(電気事業連合会資料「1世帯あたりの年間電力消費量は3,600kwh」による)に相当し、再生可能エネルギー固定価格買い取り制度(FIT)を活用し売電を行う予定です。

架台の木材は兵庫県産のスギ材を使用し、約450㎥の原木から製材した105mm角4mなどの角材4,607本をインサイジング加工した上で加圧防腐処理を行うことにより高耐久性を保持しています。

このような大規模な太陽光発電設備での木製架台の利用は事例が少なく、木材の新規用途を開拓することで木材需要の増加と間伐の促進につながります。

荒廃した日本の森林を健全で持続可能な森林になる一助となるよう、木製架台の普及拡大を図っていきます。

1.33メガワットの太陽光発電所を建造中

協同組合運動に生きる

「これまで」の上に「これから」の協同組合がある

ＪＡ兵庫中央会　専務理事　浜田　充

協同組合を、これから担っていく人材をどう育てるか。協同組合にとっての最重要な使命であると同時に、大きな課題でもある。

先賢から、右手に「理念（協同組合）」、左手に「算盤」と聞かされてきた。これは、協同組合にとって、どんな時代にあっても忘れてはならない経営の視点と万全な経営のもとに組合員のニーズ、期待される事業に取り組むことを言い表した言葉である。

それぞれの協同組合は、その事業を効果的に遂行するうえで、「求められる職員像」がある。身につけるべき能力、知識は、職員像が明らかになって初めてわかる。さらに協同組合の運動者としての役目も求められる。

協同組合の運動者としての意識は、職場に入ってからの研修と、職員の自覚によって育てなければならない。運動者としての側面は協同組合独自のものであり、一般の企業の教育研修にはない。このそれぞれの協同組合で行っている教育の垣根を越えて、先日、兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫ＪＣＣ）が「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を開催した。

兵庫ＪＣＣ４団体（生協、ＪＡ、ＪＦ、森林組合）の次世代を担う職員が、各協同組合の事業と活動を学び、顔の見える関係を築き、事業の連携につなげることや協同組合の理念の共有を目的に、ＪＦの競り市（明石浦漁協）、ＪＡの直売所（六甲のめぐみ）、生協の協同学苑史料館の視察を行った。

座学でなく、各協同組合の実際の事業の現場まで出向き、各事業協同組合での多様化した組合員の地域期待やニーズにどのように応えているのかを見て、自らの組織、事業基盤を改めて問い直し、協同組合を考えるきっかけになることを期待している。さらに、今回の参加者からまた次の世代へと関係がつながっていくことを願っている。

参加者の意見交換で、「各団体の事業がよく分かった」「協同組合の垣根を越えて、組合員・地域に貢献したい」「日頃、現場の仕事に追われ改めて協同組合を考える機会を得た」などの意見があり、開催した意義は大きかったと思う。

この取り組みは、２０１２年の国際協同組合年を一過性の取り組みに終わらせず、次世代に引き継いでいくことを目的に計画したものでもあるが、この取り組みはそういう意味からも大きな一歩にしなければならない。

国連が２０１２年を「国際協同組合年」と位置づけたのも、飢餓、・貧困の撲滅に貢献できる可能性を協同組合の活動に見出し、「持続可能な開発、貧困の根絶、都市・農村におけるさまざまな経済部門の生計に貢献できる事業体・社会的企業」と高く評価していると聞いている。

それぞれの協同組合が現実の経済社会問題の解決に貢献できる可能性があり、その取り組みを通じて協同組合の発展が期待されている。

私は、国連が協同組合を高く評価し、「２０１２年を国際協同組合年（ＩＹＣ）」としたことを「誇り」に思っている。「２０１２年が国際協同組合年である」こと自体をＰＲすることがＩＹＣの本当の意義ではない。大切なことはこれを契機に、協同組合を多くの方に知ってもらうために改めて情報発信すること。自らの協同組合としての役割を自覚しなおすことの2つに「誇り」を持って取り組まなければならない。

今こそ、「buy my Kyoudoukumiai」と自信をもって伝えていきたい。「これまで」の上に「これから」の協同組合があるのだから。